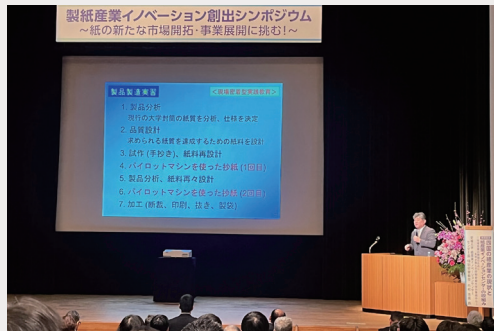


四国中央市×富士市 紙の未来が見えるシンポジウム開催



3月2日、紙産業の新たな事業展開と持続的な発展を考える「製紙産業イノベーション創出シンポジウム」が、静岡県富士市で開催されました。

本市からは、愛媛大学紙産業イノベーションセンターの内村浩美センター長を始めとするトップランナーが登壇し、先進的な取り組みを紹介しました。

地域共生社会の架け橋へ 太陽の家(児童部)を移転新築



妻鳥町の障がい児入所施設「太陽の家」が、下柏町にある子ども若者発達支援センターの敷地内に移転新築し、2月27日に開所式が行われました。

開所式では、大西市長を始めとする関係者がテープカットで障がい児支援施設の充実を祝うとともに、発達支援施策の更なる発展を誓いました。

SOMPOボールゲームフェスタ開催 有名アスリートが運動の極意を伝授



トップアスリートが子どもたちにスポーツの楽しさを伝えるイベントが、2月23日に伊予三島運動公園で開催され、約200人の親子でにぎわいました。

子どもたちは、元ラグビー日本代表の大野均さんら講師陣と一緒に、遊びや球技を楽しみながら体の動かし方やトップレベルの技術を学びました。

四国遍路を世界遺産に みんなで遍路道の整備状況を点検



四国4県約1200キロメートルの遍路道を105の区間に分けて点検する「一日一斉おもてなし遍路道ウォーク」が、2月23日に行われました。本市からも老若男女約160人が参加し、ごみを拾いながら遍路道を歩いて整備状況や危険箇所を確認しました。また、三角寺では参加者へのお接待も行われました。

三島高校守谷美咲さんが受賞を報告



三島高校3年の守谷美咲さんが、昨年9月に東京都で開催された音楽コンクールの金管楽器部門・高校生の部で、ユーフォニアムの見事な演奏を披露し、第1位に輝きました。

2月26日、市役所で大西市長に受賞の喜びを伝えた守谷さんは、国際コンクールへの挑戦という新たな目標を掲げました。

えひめ伝統工芸士認定 藤原製紙所藤原美郷さんの技術を評価



2月24日、伝統的製品の優れた製造技術者を認定する「えひめ伝統工芸士」に、和紙の乾燥工程を担う「紙つけ」職人の藤原美郷さん(金生町下分)が選ばれました。

藤原さんは「紙漉き職人の夫と共に歩んできた46年間が、このような形で評価されたことを嬉しく思います」と話しました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



※所属や学年などは取材時のものです

本市名物「揚げ足どり」採用メニュー 四国のSA・PAで頂点に輝く



西日本のサービスエリアなどが自慢のグルメを競う「西イチグルメ決定戦」の四国地区大会で、本市名物「揚げ足どり」を使ったメニューが見事グランプリを受賞しました。このメニューは現在、石鎚山サービスエリアの上り線で提供されています。

写真 大西市長と受賞を喜ぶ、石鎚山SAを運営する伊予鉄商事株式会社の石山有一代表取締役社長（2月9日、市役所）

子どもたちの健やかな成長を願い 郵便局長会・夫人会が知育玩具を寄贈



地域貢献活動に取り組む、県東予地区郵便局長会（眞鍋太祐会長・写真中央左）と同夫人会（高橋真衣会長・同右）から、子育て支援に寄与したいと、カードゲームやボードゲーム17種類が寄贈されました。頂いたゲームは、園児たちが遊びを通してコミュニケーション能力を育むツールとして活用します。

事故や災害からまちを守る あいおいニッセイ同和損保と協定を締結



2月25日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（新納啓介代表取締役社長）と本市は、地方創生に関する協定を締結しました。調印式に出席した同社の古数尚大愛媛支店長は、「これまでに蓄積してきたデータを活かし、市民の皆さまを事故や災害から守りたい」と、協定に込めた思いを語りました。

本市の活性化を目指して ネットトヨタ瀬戸内と協定を締結



3月5日、ネットトヨタ瀬戸内株式会社（平松龍一代表取締役）と本市は、それぞれの資源を活かし、持続可能なまちづくりを推進するため、包括的連携協定を締結しました。平松社長は、「自動運転技術を活用した公共交通の高度化などを通じて、地域社会に貢献していきたい」と述べました。

選挙関係功労者総務大臣表彰 明るい選挙推進協議会石川祐子さんに感謝状



19年にわたり、選挙の適正な執行や投票意識の向上に尽力してきた石川祐子さん（上柏町）の功績がたたえられ、3月5日に総務大臣から感謝状が贈られました。石川さんは、若者の投票率が伸びていることに触れ、「引き続き多くの人に関心を持ってもらえるよう努めます」と述べました。

祝 学校給食優良学校表彰 川之江小学校の取り組みが高評価



川之江小学校が進めるICTを活用した食育活動などが高く評価され、2月6日に県の「学校給食優良学校」に選ばれました。この表彰は、給食を通じて健全な食生活の育成に顕著な成果を挙げた学校などに贈られるものです。今後も、安心して楽しめ、学びのある学校給食の提供に努めてまいります。



シンガポール競泳国際大会 JOC全国ジュニアオリンピックカップ エリエールスポーツクラブの選手が出場

エリエールスポーツクラブの脇 菜那さん（川之江北中2年・写真中央右）が3月に行われる水泳の国際大会に出場し、森下泰明さん（三島東中2年・同中央）、星川夏伊さん（南小6年・同中央左）、穂波慶さん（三島東中1年）と脇さんの4人が、同月に東京都で行われる全国大会に出場します。



全国ホープス選抜卓球大会 エリエール卓球クラブの選手が代表入り

エリエール卓球クラブの田村優真さん（川之江小6年・写真中央左）と坂本愛夏さん（妻鳥小3年・同右）が、昨年12月の選考会で優秀な成績を収め、3月に秋田県で開催された卓球の都道府県対抗戦に出場しました。両選手は2月9日に市役所を訪れ、大西市長に大舞台での活躍を誓いました。



「火は大切な物をうぼう」 防火ポスター優秀作品を表彰

児童の防火意識を高めることを目的に、市危険物安全協会（山下茂樹会長）が実施するポスターコンクールの表彰式が、2月19日、消防防災センターで行われました。応募された460作品の中から最優秀賞と優秀賞に選ばれた児童に、表彰状が贈られました。



お金はよく考えて使おう 保育園で金融教室を開講

2月12日、上分保育園で川之江信用金庫による金融教室が開かれ、年長児16人が「お買い物ごっこ」などを通して、お金の役割や使い方を学びました。園児たちは、遊戯室に登場した駄菓子屋や輪投げなどのお店を巡り、信用金庫で両替をしたり、友達と相談したりしながら、買い物を楽しみました。



四国中央農山漁村ふるさとづくり大会開催 故郷の農と食の大切さを学ぶ

2月7日、地元食材を使った料理の試食会や活動事例の発表を通して、生産者と消費者が1年間の取り組みを共有する催しが、中之庄町のJAうま総合経済センターで行われました。事例発表では、金生第二小学校の5年生が、地域と協力して取り組んだ米作りを通して学んだことを紹介しました。



子どもたちに書道文化を伝承 金生第二小で笑顔いっぱいのパフォーマンス

2月26日、香川県教育委員会の二宮靖之さん（元高松商業高校書道部顧問）と川之江高校書道部員を招いた特別授業が、金生第二小学校で行われました。授業では、同校の3・4年生が「笑顔いっぱい」から連想した言葉の色鮮やかな紙に揮毫し、4歳×6歳の大きな紙に大書した題字に彩りを添えました。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、ホームページ「まちの話題」に掲載しています



※所属や学年などは取材時のものです



誰もが安心して暮らせるまちへ 人権擁護委員協議会が成果を報告

2月9日、人権問題の解消に向けてさまざまな活動に取り組む四国中央人権擁護委員協議会(田中あけみ会長)が、大西市長に活動報告を行いました。報告では、学校での人権教室や人権の花運動、人権相談などの成果が紹介されるとともに、これらの活動を通して見えてきた課題についても共有されました。



地域の力で歴史を守ろう 文化財防火デーに合わせて防火訓練

2月16日、金生町山田井にある国指定重要文化財「真鍋家住宅」で、防火訓練が行われました。訓練は、近くで発生した不審火が建物へ延焼する恐れが生じたという想定で実施され、参加者は互いに声を掛け合いながら、消防署への通報、初期消火放水などに真剣に取り組みました。

今年も力作ぞろい 児童・生徒 書道展覧会開催



県書道用紙連合会(石村浩会長)では、書道文化の普及と振興を目的に、毎年、市内の小学3年生から中学3年生を対象とした書道展を開催しています。今年も市内の小・中学生から寄せられた力作328点が、2月7日から3月1日に掛けて妻鳥町の県紙産業技術センターで展示され、多くの来場者を楽しませました。また、市長賞を始めとする入賞作品63点は市内3か所を巡回し、最終会場の川之江ふれあい交流センターでは、4月12日まで展示されています。ぜひ足をお運びください。

サクラサケ!

「合格したよ!」という喜びを伝える電報の主役だった「サクラサク」も、時の流れとともに出番を失ってしまった。

それでも、思いの丈を存分に綴った長文や、シャッターを押しまくった画像、感動をリアルに伝える動画などが瞬時に光ファイバーの中を走り、空を駆け巡って届けられる技術文明の陰に鎮座して微笑んでいるように思える。

長年の懸案であった「太陽の家」児童部の新しい暮らしの場が、多くの方々のご尽力により晴れて完成し、2月27日に開所式を行った。人生3度目のテープカットもさせていただき、感無量であった。

既に内覧は済ませてあったが、真新しい入所施設の10人分の居室には、それぞれ花の名前が付されている。ひなぎく、すずらん、もも、なでしこ、こでまり、あさがお、こすもす、なのはな、すみれ、あやめ。子どもたちが日々暮らすこととなる部屋を巡りながら、建築に携わった人々の思いにも寄り添ってみた。桜や梅、菊や百合など日本を代表する花のような優雅

逆風

浩帆!

四国中央市長
大西賢治



さは無いまでも、どれも可憐な美しさを誇る花ばかりである。すずらんやこでまりなど、何種類かは我が家の庭にもあるな...と思いつつ、傍にいた職員に声をかけた。「どの花も前の庭に植えて、これがあなたの部屋のお花よ!」って言うてあげたらええなあ...」

折しも、3月8日に第1回の「書道パフォーマンスインカレ」が開かれ、名乗りを挙げてくれた13の大学生チームが、書やパフォーマンスとともに、漢語や和語の短い言葉に託した想いを体現してくれた。大阪教育大学の「相潤」に勝利の女神は微笑んだが、どの演技も、高校生の甲子園とは趣の異なる魅力と感動に満ちていた。

4月から、銘々の事情を背景に親元を離れ、「太陽の家」での新しい生活を始める5人の子どもたちを温かく包み、しっかりと育てることが私たちに課せられた使命だ。その子たちをはじめ、すべての子どもたちに電報を送りたい。「サクラサケ!」「人生ノ美シイ花ヒラケ!」